

## 第2回 たかちほ+未来共創会議

2025/12/23 10:00~12:00

場所:高千穂町役場4階大会議室

出席者:別紙の通り(代理出席2名、欠席者4名)

### 全体要約

本会議では、第1回たかちほ+未来共創会議で確認した検討の前提を踏まえ、「たかちほの杜プロジェクト」における町の将来像および拠点の役割について、委員間で意見交換を行った。

人口減少や将来の担い手不足に対する強い危機感が改めて共有され、道の駅およびまちなか複合施設は、単なる施設整備ではなく、観光・交流・暮らし・防災を支える町の中核拠点として検討すべきとの認識が共有された。

道の駅の立地については、第1回会議の承認を踏まえ、総合公園付近を前提として、施設の役割や機能に関する意見交換が行われ、施設規模や機能、駐車場計画、防災対応等について、より具体的な議論を行う必要性が示された。

また、まちなか複合施設については、町民の日常利用を支える拠点としての役割を重視すべきとの意見が多く出され、道の駅とまちなか複合施設がそれぞれ異なる役割を担いながら、町全体として効果を発揮する関係性の重要性が確認された。

グループワークを通じて、町の将来像や拠点施設に求められる役割・機能について多様な意見が示され、今後の基本構想整理に向けた重要な検討材料が得られた。

### 承認事項

- 策定手順を見直し、道の駅とまちなか複合施設を同時に検討する形で、基本構想を策定すること。
- 基本構想段階においては、敷地範囲や施設規模を直ちに確定するのではなく、町の将来像や拠点の役割・機能について意見を整理する段階であることを委員間で共有したこと。

### 委員からの主な意見

#### 1. 町の将来像に関する意見

- 人口減少が進行する中で、町の将来に対する強い危機感が示された。
- 若者が町に残り、また一度町外に出ても戻ってこられる環境づくりが重要。
- 観光を入口として、定住や関係人口の拡大につなげる視点が必要。
- 仕事、産業、暮らし、教育、福祉が町の中で循環する構造を目指すべき。

## 2. 道の駅に関する意見

- 道の駅は「通過点」ではなく、訪れること自体が目的となる施設を目指すべき。
- 駐車場不足は町全体の課題であり、十分な駐車機能を備えた拠点が必要。
- 防災拠点として、避難・受入・物資集積などを想定した機能が不可欠。
- 観光客向け機能に加え、地元産品販売、加工・体験、飲食、滞在・交流機能を組み合わせた複合的な施設が望ましい。
- 高速道路整備と連動した整備であることから、将来の交通量や利用者像を見据えた計画が必要であるとの意見があった。
- 観光客向けだけでなく、町民にとっても使いやすい道の駅であるべきとの意見が示された。

## 3. まちなか複合施設に関する意見

- 町の中心部には、日常的に立ち寄れる居場所や交流の場が不足しているとの課題認識が共有され、町民が日常的に利用できる拠点として、重要な役割を担うべき。
- 子育て支援、高齢者交流、福祉、学習・図書館機能などを集約し、高齢者、子育て世代、若者など、多様な世代が自然に集まれる機能を備えることが重要。
- 目的がなくても立ち寄れる「居場所」や「憩いの場」としての機能が重要。
- 交通弱者に配慮した交通結節機能を備える必要がある。
- 観光客向け施設とは異なる役割を明確にし、町民主体の施設として位置づける必要がある。

## 4. 両施設に共通する視点

- 道の駅とまちなか複合施設は、どちらか一方に機能を集中させるのではなく、役割分担を明確にした上で相互に補完し合う関係とすべき。
- 道の駅を訪れた来訪者が、まちなかにも足を運ぶ流れをつくるのが、町全体の活性化につながる。
- 個別施設の評価ではなく、町全体としてどのような効果を生むかを重視すべき。
- 規模や機能は、将来の人口動向や観光動向を踏まえた検討が必要。
- 施設単体ではなく、町全体の回遊性や周辺施設との連携を意識すべき。
- 運営・経営の視点を欠いた施設整備は持続しないとの認識が共有された。

### 次回以降に整理・検討すべき事項

- 高千穂町が目指す将来像(中長期的な視点)の整理。
- 活用する敷地の範囲および造成条件の整理
- 高速道路整備に伴う建設発生土の活用条件の整理
- 地権者および関係機関との調整状況の整理
- 施設規模や配置に関する考え方の提示